

安曇野市公民館報

安曇野市
中央公民館
No.43 2018.7.4
TEL71-2466

第12回安曇野市公民館大会

五月晴れの5月20日、豊科公民館ホールにて第12回安曇野市公民館大会が開催された。



開会前に市歌を斉唱

開会式では、安曇野市公民館長会の山田賢一会長から「北アルプスの麓に田園風景が広がり、他に比べようもない美しいこの安曇野で、伝統を大切にしながらも実社会に即した公民館活動を、地域のニーズを拾いながら進めていきましょう。長野県でも人々の生涯を通じた学びの場として、公民館が中核を担っています。地域づくりは人づくり、集う、結ぶ、学びあう場としての公民館活動の発展を願っています」というあいさつがあった。

引き続き、公民館活動推進功勞者表彰及び地区公民館報表彰が行われた。受賞者は次のとおり。

公民館活動推進功勞者 (敬称略)

▼前豊科公民館長

内川 丈夫男

▼前寺所地区公民館長

岡村 典明

▼前古厩地区公民館主事

小林 剛

▼前三郷公民館長

千國 温

▼前潮沢地区公民館長

小林 公緒

地区公民館報表彰

▼最優秀賞

豊里地区公民館

柏原地区公民館

野沢地区公民館

▼優秀賞



表彰状と記念品が授与された

事例発表

下押野地区公民館



事例発表では、

明科下押野地区公民館館長・矢花幸雄さんと主事・太田雅司さんが法被姿にちよんまげのカツラをかぶり拍子木を鳴らしながら登場。数多くの地区公民館行事の中から、納涼祭について発表し、納涼祭は、実行委員会が運営しており、ステージプログラムの企画がされ、団体などの露店の出店がある。また、周知のために手ぬぐいやプログラム、抽選券などが配布されるため、区民はもとよりお盆で帰省した若者たちもともに楽しんでる。露店などの売りにあがり、出店団体の活動資金として還元され、公民館活動もより活発になる。納涼祭が「集い、楽しみ、絆を深める場」として定着している様子がうかがえた。

講演 福島 明美さん

講演では、地域クリエイター・茅野市市民活動参与として活躍されている福島明美さんが「未来を拓く地域づくり〜公民館活動で、地域の元気を育む〜」と題して、ご自身が体験されてきたエピソードを交えながら、地域づくりにおける公民館活動の役割について話

した。

「あなたが創る10年後のしあわせ」「自分の住む地域のいいところ」など、「参加者が自分ごととして考える」ワークも入れながら、これからの少子高齢化や災害に備える地域社会について学んだ。地域に3つの間「サンマ」(仲間・空間・時間)が足りないと言われているが、誇りをもって住み続けたいような豊かなまちづくりを実現するために、何をしていけばいいのか。出会い、つながり、創造する場としての公民館の役割、課題解決の実践事例などを紹介した。公民館は地域の真ん中。3つのワーク(チームワーク・ネットワーク・フットワーク)で自分の好きなことから始め、まちを育てながら、課題をエネルギーに変え、楽しみながら活動することが大切。「まちづくりはふるさとづくり」「ふるさとづくりは人づくり」「人づくりは関係づくり」というキーワードを挙げた。

最後に、この2月に亡くなったNPO法人まちの縁側育くみ隊の前代表理事で、福島さんがまちづくりに関わるきっかけとなった延藤安弘さんの「私よし、あなたよし、地域よし」という言葉で締めくくった。



古きを尋ねて

②8 真々部氏館跡 (豊科・真々部)



真々部氏館跡は、JR中萱駅から徒歩20分、千国道から東に入り金龍寺の駐車場の北にある。

案内板の説明によると『武田氏は信濃・安曇野への経略と上杉勢への備えのために千国道（武田の棒道）を新たに開削し、安曇の南部に真々部城館と市を設置した。そして千国道の中程に穂高市北部に高根市（大町）を配置し、糸魚川間までを最短距離で結ぶ軍事道路を作った。（中略）武田晴信は天文19年（1550年）頃、武田の軍団が武器・馬・食糧等の準備をする北進の基地として真々部城館と城下町を築き宿城としたと思われる。真々部城館は45間（注・約82メートル）四方あり本丸を囲

む土塁（市史跡）と堀で囲まれていた。（後略）とある。

真々部氏館跡には、安曇野市の真々部氏館跡の碑があり公園になっている。真々部区歴史研究会で作成した案内板や地図があり、城下町の様子がよくわかる。館を中心に道・堰・寺社・宅地・田畑等を計画的に配置した地割跡が残っている。七寺八小路については、寺院は一部しか残っていないが、八小路は現存する。また、堰がたくさんあり改めて水の重要性が感じられる。先人の知識の結集であり安曇野の命の源である。

千国道（武田の棒道）は、直線で見通しが良いし交通量も少なく散歩には最適である。城館跡の周りを歩くと真々部区が交通の要衝であることも良くわかる。中萱駅より歩いて館跡まで行くことをお勧めしたい。

（参考文献 真々部区誌・豊科町誌）



真々部氏館跡付近の様子

グループ紹介

響遊会（堀金） きょうゆうかい



「響遊会」は平成12年2月に2団体の和太鼓チームのメンバー有志が、組太鼓以外の可能性を求めてみようと結成。当初は演奏スタイルの模索研さんを主としていたが、同年6月に三宅島の噴火災害が発生し、救援チャリティーコンサート（於 豊科公民館）の出演依頼を受け舞台上立つこととなる。

篠笛と各国の民族楽器やストンプ（身の回りにある楽器では無い物を使って演奏する）と合わせたコラボ演奏を楽しんだりしている。メンバーのなかには、篠笛を習得したいと参加する小学生もいるが、成人して堀金を離れたり、高校入学後に勉学と部活動のため休会中の者もいる。

主な活動の場は市内外の各種福祉施設でのボランティア演奏、イ

ベントでのアトラクションへの出演など。

ストンプに使う物はホームセンターなどで探すことが多い。また、ホウキの柄の笛やデッキブラシの柄の尺八など自作を試みたりしているが舞台上で使える物を作るのは難しい。それも励みではあるが…。

これまで型にはまらずに柔軟な発想でいろいろ挑戦してきた。今年横笛の演奏技術の向上と、きれいなアンサンブルを目指して練習しているが、まだまだ発展途上である。



練習は毎週水曜日、堀金公民館で行っている。篠笛・横笛はもとより民族楽器・ストンプに興味のある方や、ピアノやギターなどの楽器で参加してみたい方は、ぜひ気軽にお問い合わせください。

代表 中澤芳朗 73-4517

私は一生懸命

滝澤 実雄さん (明科)



ある晩、小学

校体育館の横を歩いて帰宅していると太鼓の軽やかな音が聞こえ、ほろ酔い気分の体に心地よく響いた。明科地域の中に太鼓のグループがあることは知っており、興味を持っていたので「太鼓をやるう」と心にきめた。

会の名前は明科地域芸術文化協会所属の「信州安曇野あすなろの会」で、代表者は平林千代さん。メンバーは小学生とそのお母さんという構成で顔見知りも多い。出入りもあるがおよそ15人位の会員が、にぎやかに和気あいあいと練習をしている。

平成15年に親子で入会し、太鼓演奏の定番「勇駒」を必死で覚える。翌日には腕が痛くなつたが、曲を覚えるのに頭を使い運動にもなるのでこれはいいと思つた。子どもたちは覚えるのが早く物おじしない。一年一年成長していく姿を見ているのも楽しい。中学生になると多くは太鼓を卒業していくが、その経験がどこかで役に立つ

てくれればうれしい。昨年2歳の男の子が入会した。小さな手にバチを握り、メンバーの拍子に合わせる様に小太鼓をたく姿が微笑ましい。他の子どもたちも温かく見守り、どちらも将来が楽しみである。

会では、勇ましい曲の他、お囃子風ののどかな曲にも力を入れ、あやめまつりなどの市のイベントや介護施設への訪問などの演奏活動を続けており、皆さんに喜ばれている。

現在は、練習会場の準備なども含め、会計・庶務・運搬移動・力仕事など、会の一翼を担っている。今後も独自性を出しながら、地域と一体となった活動を続け、体力の少し落ちた今は「メンバーのちよつと口うるさいおやじ」的存在で、ずっと関わって行きたいと思つている。



また、ダンスサークル「たんぽぽ」にも属して、ステップとダンスを楽しんでいる。どちらも大切なものはリズム感と仲間である。

地区公民館だより

東小倉地区公民館(三郷)

東小倉地区は、三郷地域の中西部に位置し、南は黒沢川左岸から室町、西は室山の東側から南小倉、東は千国街道から上長尾、北は北小倉の果樹園が続くサラダ街道に沿って楡に至る。地域のシンボルとして憩いの場である室山は、眼下にリング畑が広がり、頂上には室山アグリパークが整備され、「安曇野みさと温泉フラインビュース山」がある。世帯数468戸、人口1085人である。(1月1日現在)

東小倉地籍では縄文人が4000年前生活した跡が遺跡として発掘されている。江戸時代には「御林」と呼ばれた赤松林を松本藩が管理、明治時代に国有化され「小倉官林」になり、大正時代に小倉村外6カ村に払い下げられた。三郷村誌によると、大正9年に開墾起工式があり移住入植が始まったとある。

公民館組織は公民館長、副公民館長、主事の三役が2年任期で担当し、副公民館長が2年目に公民館長を務める体制を敷いている。

三郷公民館主催行事への参加の他、保健体育部、文化部、生活産業部、女性学級の各部が計画立案し活動している。総務部は年末に「公民館だより」を、年度末に「公

民館通信」をそれぞれ発行している。地区内12常会の「常会対抗ワンバウンドふらば」によるバレー大会は80人が参加する。運動会とソフトボール大会を交互に続けてきたが、天候の影響や高齢化による負担を考慮して一昨年から実施している。



常会対抗ワンバウンドふらば～るバレー大会

小倉地区の行事としては、お盆の最中に恒例の「小倉4地区親睦ソフトボール大会」が続いている。ハマ園芸の協力による「寄せ植え教室」や子ども向けの「紙飛行機教室」を開いている。「区民親睦旅行」は男女の偏らない参加を目標し女性役員がコースを選定している。「人権学習会」の人権落語、相澤病院の「健康にかかわる出前講座」、市役所の出前講座「生きがいと健康づくりの会・介護予防について」や「防災出前講座」を実施し、「美化運動」として室山公園と小倉グラウンド周辺の美化清掃を続けている。

(公民館長・宮下輝敏、副公民館長・降旗久司、主事・東本博之)

とよしな

第55回童謡祭り

みちしるべ

こうみんかん

豊科公民館は5月5日「第55回童謡祭り」を開催した。

郷土の詩人藤森秀夫先生をしのんで毎年開催しており、オープニングでは藤森先生の作品「フリージア」をとよしな女声合唱団が披露した後、全員で「めえめえ兎山羊」を歌った。続いて、作詞・作曲コンクールの最優秀賞「未知と私」作詞平田真穂さん・作曲伊藤杏彩さん（ともに当時穂高西小6年）はじめ優秀作品の表彰が行われた。



演奏会の第一部では、地元の子どもたちをはじめ明るい歌声が会場に流れた。第二部では、中学時代に作詞・作曲コンクールで最優秀賞に輝き、今はドイツの楽団でファゴット奏者として活躍する丸山久美子さんとオーボエ、ピアノによるアンサンブルの演奏が行われた。

ほたか

フロアバレエ教室



穂高公民館は4月から5月にかけて「誰でもできるーフロアバレエ教室」を全5回開催した。講師は山之内里冴さんで、

NPO法人バー・アステイエ協会の長野県第一号の認定講師である。フロアバレエは、床に座ったり寝たりした状態で、音楽に合わせてクラシックバレエの「バレエスズン」の動きを基本とし行う運動だ。ゆったりとした動きで行うため、年配の方でも気軽にできる。「バレエは自己表現、できなくても自信を持って堂々とするのが大事。気持ちを高めれば表情も豊かになる」と山之内さん。大変好評のため、現在はサークルとして活動している。

みさと

ポールウオーキング

三郷公民館は5月の毎週木曜日の午後7時30分から「ポールウオーキング」のスポーツ教室を実施した。照明に映える三郷体育館グラウンドの外周で、スポーツ推進委員の松田久雄さんの指導により、2本のポールを使ったウ



オーキングを体験した。ポールウオーキングは、股関節、膝関節、足関節への負荷を軽減して身体のゆがみを解消し、筋力バランスを整える効果がある。「娘に誘われて参加した」と言う岩瀬美智子さん（75）はポールさばきを楽しんでいった。（東山路）

ほりがね

岩原城址 トレッタキング

堀金公民館は6月2日「岩原城址トレッタキング」を「岩原自然と文化を守り育てる会」と共同で開催し、80人余が参加した。



岩原城は、戦国時代、仁科氏の一族が堀金の地に進出して堀金氏を名乗り、戦いの際の防御の砦として築いた、城郭の姿を持たない山城である。頂上に通じる山道は「岩原自然と文化を守り育てる会」が1年がかりで開削、整備を重ね遊歩道として公開した。

くわ

トマトの季節がやってきた。熟れたトマトをミキサーでジュース

にしたものが大好きだ。もちろんただ包丁を入れたものも好きだ。知人にはトマトの嫌いな人もいますが、一緒に食事をするとトマトがくれるのでありがたい。なぜ私が

あかしな

深緑コンサート



明科公民館は5月26日「深緑コンサート」PLAYBACK SHOWを開催。約50人が昭和の懐かしのヒット曲をおのおの感傷に浸りながら堪能していた。

演奏者の「M.A.B」は、30代、70代の幅広い年代層の男女8人で構成され、子育てや仕事、定年後の時間を楽しみながら演奏活動をしている。明科光の大堀富貴子さん（65）は「コンサートが大好きなので、大変楽しみにしている」と言い、美空ひばりメドレーや人生いろいろの曲などに、スタンディングオベーションや手拍子を交えながら声援を送っていた。（静流）

こんなにトマトを好きかということ、幼少の頃にさかのぼる。夏になると、畑をやっていた祖父の所へ行つてはトマトを採らせてもらっていた。見た目の良くないものもあるが、大きく実ったトマトは甘くみずみずしい。ふと思いついては恋しくなるのだ。（A.Y）